

湯川秀樹先生

がいがんとごめんを続けていまして、敷居が
高い感じがいたしますが、一つは脚病気の由でご
遠慮申し上げて面もごめいまして、平に御容
赦下さいませよう。昨日日大の原さんと話を
し、お噂さそうかがい、お手紙をマシエがる
位ならお許しを得らゆるかと考えた次第で
す。

いさ、か煩とたいと思ひませうのは、10ダウホッ
この関連事であら、

まがは ICSU (International Council for
Scientific Unions) の総会が9月を2週アムス
テルダムで開かれましたことから報告い
たします。アフガニスタン、ソ連科学者はオリンピック
と同様なおバウコト運動が科学会派関係に

速達

606-□□

1980.10.19



湯川秀樹

至急
親展

京都市左京区下鴨泉川町六

c082-027

18

伝播することをひどく恐れているやん見掛けま
あが、ソ連代表スリヤビン(生化学者)が提議して、
ICSU 会則の始めにある目的条項の一つを

... to encourage international scientific
activity for the benefit of mankind, and
to promote the cause of peace and inter-
national security throughout the world.

と変えることになりました。アンダーラインの部分だけ
加わったわけですが、ICSUでの議論の大部分は具
体的な研究協力の組織的、政策的論議が大部分
ですので、こういう動議が出るのは極めて珍しい
ことで、

次に欧米関係のT.F.マローンが、第30回パゴダツシ
会議に出席したことについて報告するくだりがあ
りました。軍備費の増加が著しいこと(毎年
100億円の割合で増加している!)などを

222-00

横浜市港北区太尾町九四一
大倉山ハイムニホ三
伏見厚木

報告したあと、次の言葉で結んでいます：

These considerations prompted me to bring to the attention of ICSU the attached statement issued by the PUGWASH Council. An appropriate resolution of concern from the 18th General Assembly may be in order.

このいうパグワッシュ評議会の声明はもろもろ既に御存知のことと思います。ICSU総会でも何かあるのがよいとマローンは言っておりますので、当然彼から何か動議がなされるものと期待していましたが、会期が終りに近づいてもその気配がありません。そこでマローン氏にたづねましたら、俺としてはそれにくいので、君を代表が提案してくれということでした。日本の運が持っている立場からこの役を買って出るのは全く自然で当然でありましたので、これもアメリカのルベル Revelle と相談して次のような決議案を上げました。

16. The Need for Peaceful Resolution of
International Disputes.

--- Aware of the imminent threat to the
very survival of the human race inherent
in the world-wide arms race,

- Remembering the call for peace issued
25 years ago in the Einstein-Russel Mani-
festo signed by nine other great scientists,

--- Urges scientists everywhere to call
upon their governments to work toward
progressive limitation of weapons of mass
destruction, and seek peaceful means
for settling all matters of dispute between
them.

この決議案は圧倒的な拍手で可決されました
(廊下の注では、たとえばお隣の半島の方は、こんな
ことを政府に持って行ったらおちまち首だ'と言うよ
うな話もありましたが) ヌネスコ代表など、特に
この提案をよくしてくれたいと褒めてくれた人何人か

おりました。

以上が ICSU 総会でのパダワオシ関係報告ですが、次にこれを受けて来週始まりの JSC 総会で、似た決議案を上程したいと考えております。次のような声明をきめてもらいたいと考えています：

「国際紛争の平和的解決の必要性について」

去る9月6～12日 オランダ国アムステルダムで開催された、第18回 ICSU 総会およびその先立つ臨時総会の席上改めて、科学者の国際連携活動を通じて人類の福祉の向上に寄与し、ひいては平和の大義を求め、世界の国際安全保障を高めるよう努力すべきことを確認し、さらには科学者代表の提言に基づいて、すべての科学者に呼びかけ、それぞれが自国政府に対し、大量殺戮兵器の制限と国際紛争の平和的解決のための方途の探求を行うよう働きかけを決議した。

このような決議が行われた背景には、現在のさし迫った国際情勢の危機があり、科学者の責任がいよいよ痛切に感ぜられるような事態の進行があると思われる。

日本学術会議は、その発足の当初から、科学者として日本の文化的発展を通して世界平和へ寄与すべきことを希求し、

大量殺戮兵器の製造、貯蔵、使用について常に反対を表明し、去るオ79回総会においても、ラッセル・アインシュタイン宣言の支持と、そのための積極的行動について、ほぼ一致の決議を行い、上記ICSU勧告の精神に沿って行動をすすめてきたところである。

ひるがえって現行の日本国憲法をひもといて看るとき、この精神はまさにこの線に沿うものであり、われわれは改めて、この持つ国際的意義の深さにうたれざるを得ない。ICSUのような科学者の国際的団体がこのような勧告を行うに至った背景には、国際連合憲章、ユネスコ憲章の思想が、多くのスエーデンに強く意識されるに至ったことを示しており、日本学術会議が従来採ってきた態度が、国際的にも定着してきていることの反映である。これを機会に、われわれはさらに積極的に、広く全国の科学者とも提携し、国際紛争をすべて平和裡に解決すべき方途を探求するよう、わが国政府に働きかけることを、オ80回総会でもこのように決議するものである。

JSC総会は10月22・23・24日の3日間開かれ、上記の決議案を何日に提出するかまだきまつてはおりません。湯川先生にはこのようなJSCの動きに関心を持って頂きたく、場合によっては何かご激励のあこば'を頂戴したくも思います。

いられにしても、朝永先生がおまそくなりになって
から、この方面の活動の代表者が欠けてしまったよう
に感ぜられ、甚だしく細く感ぜられます。何かお指圖
を受けられたらと存じます。

以上管々して書きましたか、よろしくお預けい
します。

伏見康治
10月18日夜